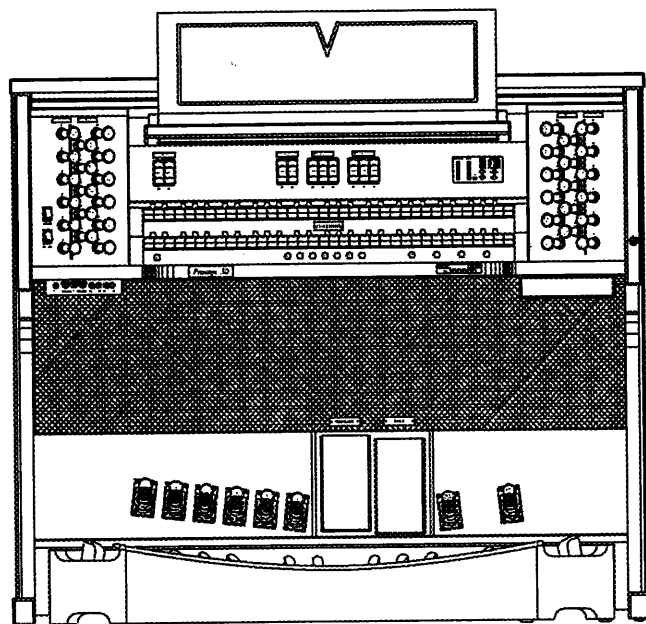


viscount

Prestige 50



Guida Rapida - IT
Quick Guide - EN
Kurzanleitung - DE
Verkorte handleiding - NL
Guide Rapide - FR

Ver. EU - 1.2

バイカウント クラシックオルガン について

現代のクラシックオルガンは、コンピュータで制御しております。

電源を入れてから、初期設定が完了するまでに、機種によって異なりますが、約10秒かかります。

「カチッ」という音がするまでは、メモリーボタンや、ストップ等には触れないで下さい。

誤動作を起こすことがあります。



もし、誤動作が発生したときは、一度、電源を切り、再度、電源を入れなおしてください。(再起動)



再起動しても、不具合があるときは、リセット(ファクトリーセッティング)をかけてください。

工場出荷時と同じ状態に戻ります。ファクトリーセッティングをかけると、メモリー内容も消えて

しまいますので、必ず別途筆記をお願いします。



リセット方法

コントロールセンター(引き出し)の、カーソル上▲と、下▼を押さえた状態で電源を入れます。

リセットが終了するまでに約10秒かかります。必ず、「カチッ」という音を確認してから、ご使用ください。

その他、取扱説明書に大事なことが書いてありますので、参照してください。

自動演奏装置付 オルガンの フロッピーディスク について

フロッピーディスクは薄い磁気シートです。高温、多湿、磁気、ホコリ等は避けて保管してください。

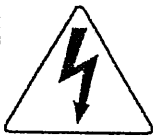
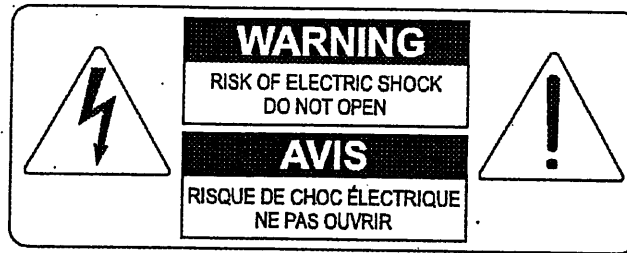
録音、再生中に電源を切ったり、イジェクトボタンを押すと、データが消滅することがあります。

必ず、ストップボタンを押してから、次の動作に入ってください。

フロッピーディスクのデータは、パソコンや、別のフロッピーへの保存をお願いいたします。

IMPORTANT SAFETY INSTRUCTIONS

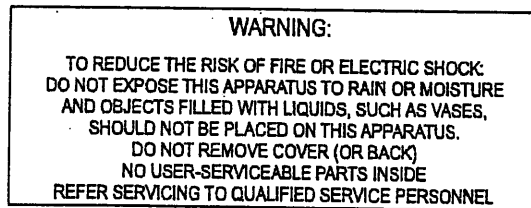
WARNING: READ THIS FIRST!



This symbol is intended to alert the user to the presence of uninsulated "dangerous voltage" within the product's enclosure that may be of sufficient magnitude to constitute a risk of electric shock to persons.



This symbol is intended to alert the user to the presence of important operating and maintenance (servicing) instructions in the literature accompanying the appliance.



"INSTRUCTIONS PERTAINING TO A RISK OF FIRE, ELECTRIC SHOCK, OR INJURY TO PERSONS"

警 告

- 1) この取扱説明書をよくお読み下さい。
- 2) この取扱説明書を保管して下さい。
- 3) すべての警告にご注意下さい。
- 4) すべての指示に従って下さい。
- 5) この楽器を水まわりで使用しないで下さい。
- 6) 楽器を拭くときは、乾いた布をご使用下さい。
- 7) 楽器の開口部を塞がないで下さい。メーカーの指定する場所に設置して下さい。
- 8) 熱源の近くに設置しないで下さい。
- 9) 安全のため、極性のあるプラグ、またはアース付のプラグを使用して下さい。
- 10) 電源コードを踏んだり、はさんだりしないで下さい。
- 11) メーカーの付属品をご使用下さい。
- 12) メーカー専用のカート、スタンド、三脚、ブラケットをご使用下さい。
カートを使用する場合は、転倒防止にご注意下さい。
- 13) 雷の場合や、長く使用しない場合はプラグを抜いて下さい。
- 14) 修理は資格のあるサービスマンにご相談下さい。電源コードやプラグが壊れた場合、液体がこぼれたり、ものが落ちた場合、雨や湿気にさらされた場合、通常に操作できない場合、落とした場合。



目 次

1.重要な注意点	2
1.1楽器のケア.....	2
1.2フロッピー・ディスクの注意点.....	2
2.コントロールと接続	3
2.1サイドパネル.....	3
2.2中央パネル.....	4
2.3押しボタンのコントロール.....	5
2.4ペダルのコントロール.....	6
2.5鍵盤棚下の接続端子.....	7
2.6リアパネルの接続端子.....	8
2.7リモート・コントロール.....	10
3.セントラル・コントロール・ユニット	11
4.オルガン ジェネラル セットアップ	14
4.1トレモラントの設定.....	15
4.2トリバープの型を選ぶ.....	15
4.3手鍵盤のジェネラルセットアップ.....	16
5.レコーディングとプレイバック	18
5.1演奏した曲を録音する.....	18
5.2レコーディングした曲をプレイバックする.....	19
7.ファクトリー・セットアップ	20

1.重要な注意点

1.1楽器のケア

- ・オルガン本体やコントロール部(ノブ、ストップ、ボタン等)に無理な力を加えないで下さい。
- ・ラジオ、テレビ、コンピューター、ビデオ等 強いノイズを出す機器の近くに、オルガンを設置しないで下さい。
- ・熱源の近く、湿気の多い場所、ほこりっぽい場所、また磁気の強い所にオルガンを設置しないで下さい。
- ・楽器を直射日光にさらさないで下さい。
- ・楽器内部に異物を入れたり、液体をこぼしたりしないで下さい。
- ・掃除をする場合は、柔らかいブラシか、エアを使用して下さい。洗剤、溶剤、アルコールは決して使わないで下さい。
- ・スピーカーへの接続にはシールドケーブルを使用して下さい。ケーブルをはずすときは、必ずコネクター部分を持って下さい。またケーブルを巻くときは、結んだり、ねじったりしないで下さい。
- ・スピーカーへの接続を確認してから、スイッチをONにして下さい。雑音や危険なピク信号を避けることができます。
- ・長期間オルガンを使用しない場合は、電源ソケットからプラグを抜いて下さい。

1.2 フロッピーディスクの注意点

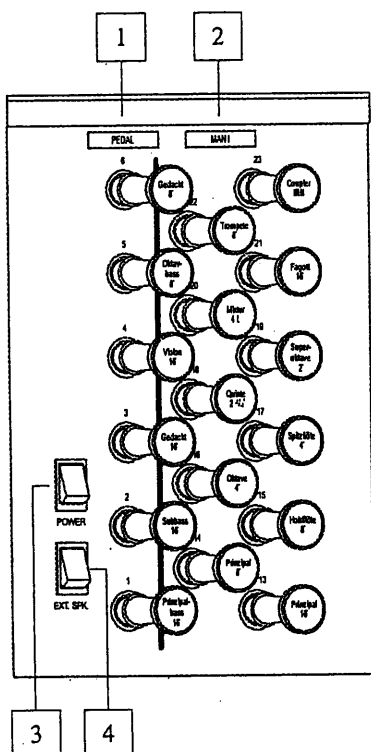
- ・品質の良いフロッピーディスクをご使用下さい。
- ・フロッピーディスクドライブのLEDが点灯中はフロッピーディスクを取り出さないで下さい。ヘッドをいため、磁気データを破壊する恐れがあります。
- ・MS-DOSスタンダードにフォーマットした3.5"フロッピーディスク(720Kb または1.44Mb)をご使用下さい。
- ・フロッピーディスクを熱源、磁気を発するもの(コンピューター、ビデオ、スピーカー等)の近くや、湿気のある場所、ほこりっぽい場所に保管しないで下さい。
- ・壊れたフロッピーディスクを使用して、フロッピーディスクドライブが損傷を受けた場合は、メーカーは責任を負いません。

警告! 電源スイッチをオンにすると、オルガンがリセットを開始します。(メモリーが順に点灯) 約10秒後にカチッというリレー音が聞こえて、オルガンが使用できる状態になります。必ず、リレー音の後で、使用して下さい。(オルガンがスタンバイ状態になる前に操作すると、不具合を起こすおそれがあります。)

2.コントロールと接続

2.1 サイトパネル

左パネル



1. 足鍵盤のドロップ: ここには足鍵盤のボイスとカプラーがあります。

2. Man.Iのドロップ: Man.Iのボイスをコントロールします。
ここにはカプラーもあります。

○ [II/I]: Man.IIのボイスをMan.Iで演奏できます。

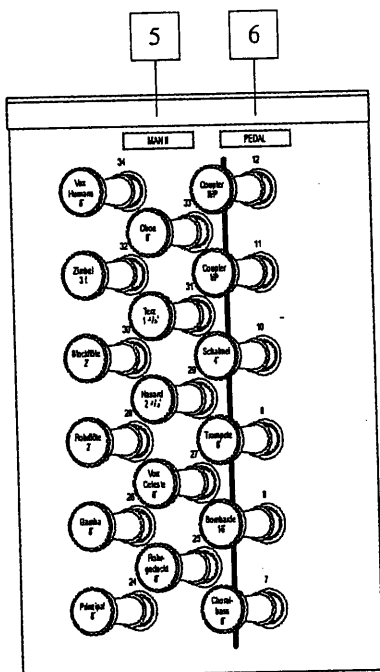
○ [III/II]: Man.IIIのボイスをMan.IIで演奏できます。

○ [I/II]: Man.IのボイスをMan.IIで演奏できます。

3. 電源スイッチ: オルガン全体の電源をオン・オフします。

4. [EXT.SPK]スイッチ: 外部スピーカーに使う[EXT+12VDC]の
オン・オフができます

右パネル



5. Man.IIのドロップ: これらのストップでMan.IIのボイスをオン・オフ
できます。

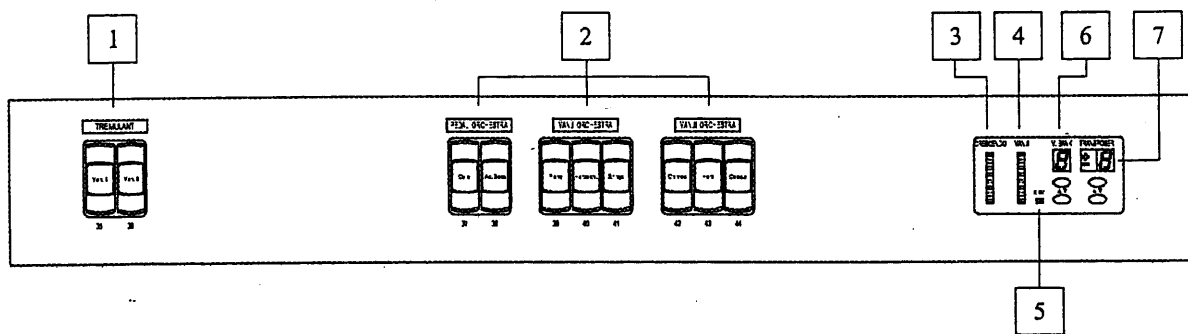
6. 足鍵盤のドロップ: ここには残りの足鍵盤のボイスとカプラーが
あります。

○ [I/P]: Man.Iのボイスを足鍵盤で演奏できます。

○ [II/P]: Man.IIのボイスを足鍵盤で演奏できます。

注意: カプラーはオーケストラボイスと同時に作動しません。

2.2 中央パネル



1. [TREMULANT]部: ここには両手鍵盤のトレモロがあります。

2. オーケストラ部: ここにはオルガンのオーケストラボイスがあります。

オーケストラ部はプレスティッションの重要な要素です。

- [PEDAL ORCHESTRA]: 足鍵盤用のオーケストラボイスです。
- [MAN.I ORCHESTRA]: Man.I用のオーケストラボイスです。
- [MAN.II ORCHESTRA]: Man. II用のオーケストラボイスです。

初期設定以外のボイスを選んだり、パラメーターを変更する場合は、アドバンス・マニュアルをご参照ください。

3. [CRESCENDO] LEDバー: クレッシェントペダルの段階を表示するLEDです。

4. [MAN. II] LEDバー: MAN. II のエクスプレッションペダルの段階を表示するLEDです。

5. [K. INV.] LED: キーボードインバージョンの状態を表示するLEDです。

この機能がオンになると、Man.IとMan.IIが逆転します。

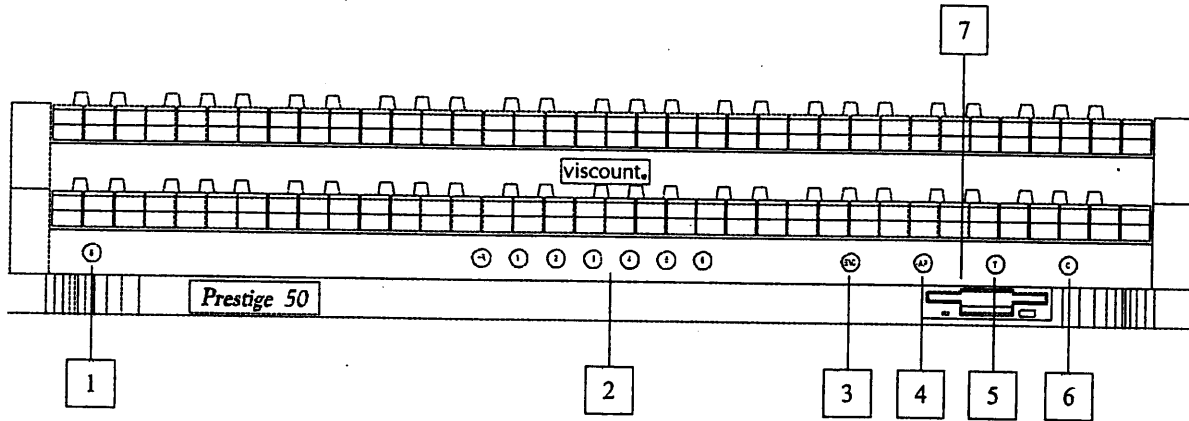
6. [M. BANK] セレクター: 8つのメモリーバンクにはジェネラルメモリーと専用メモリーを保存できます。

トータル: 48メモリー

この機能は複数のオルガニストが1台のオルガンを使用する場合に便利です。
個々のオルガニストがそれぞれのレジストレーションをメモリーできます。

7. [TRANSPOSER]セレクター: +5~-6半音の範囲でチューニングを変えられます。

2.3 押しボタンのコントロール



1. [S]ボタン: メモリー保存用のセットボタンです。メモリーを保存するには、まずSボタンを押し、押したまま保存するメモリーボタンを押します。

2. メモリース: ここにはジェネラル・メモリーがあります。
メモリーには[HR]というボタンがあります。このボタンを押すと、メモリーボタンを押す前の、手動で設定したレジストレーションに戻ります。

メモリーに保存できるのは次のものです。

- ホイス(オーケストラホイス含む)
- カプラー
- トレミュラント(スピード及び深さ含む)
- MIDIコントロール、プログラム・チェンジ
- エンクロースト、オートマテック・ペダル

3. [ENC]ボタン: このボタンを押すと、Man.IIのペダルでオルガン全体のボリュームをコントロールできます。

4. [A.P.]ボタン: このボタンを押すと、Man.Iの最低音32音で、足鍵盤のホイスを演奏できます。
このとき、音は低音を優先して、単音となります。また足鍵盤からは音が出なくなります。

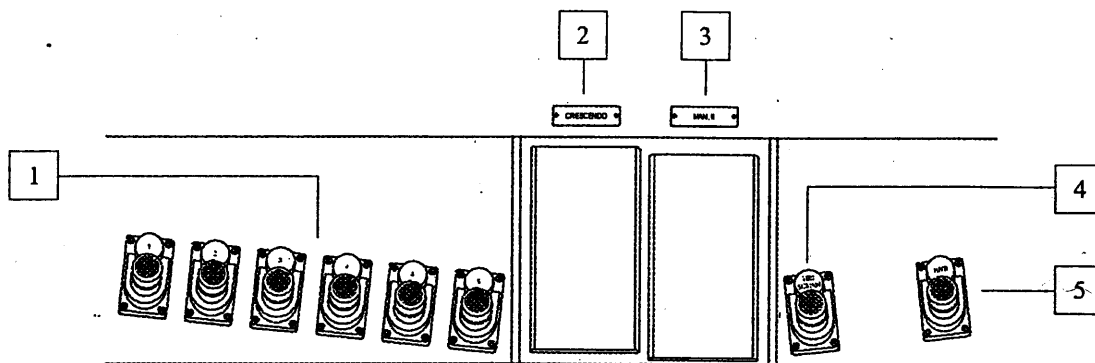
5. [T]ボタン: このボタンを押すと、トゥッティになります。

トゥッティは変更できます。ホイスとカプラーを選び、Sを押しながらTを押してください。
(Tボタンの代わりにTUTTI トウ・ピストンを押してもよいです。)

6. [C]ボタン: これはキャンセルボタンで、ホイスやカプラーをキャンセルし、HRポジションに戻します。

7. フロッピーディスクドライブ: 1.44Mb 3.5"フロッピー使用

2.4 足鍵盤のコントロール



1.メモリー・ピストン: メモリーを作動させるピストンです。

2.[CRESCENDO]ペダル: このペダルを踏み込むと、あらかじめ設定した順に音量が増えて行きます。クレッシェンドの段階はLEDで表示されます。

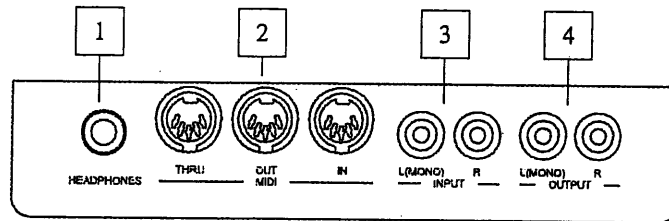
クレッシェンドは変更できます。まず段階を選び、必要な音量とカブラーをオンにします。次にSボタンを押したまま、ジェネラル・メモリーのHRを押します。

3.[Man.II]ペダル: このペダルでMan.IIのボリューム・コントロールができます。

4.[MIDI SUSTAIN] ピストン: オーケストラ・音量のサステインと、CC64でMIDIアウトへの送信機能もっています。

5.[TUTTI] ピストン: トuttiを作動するピストンです。

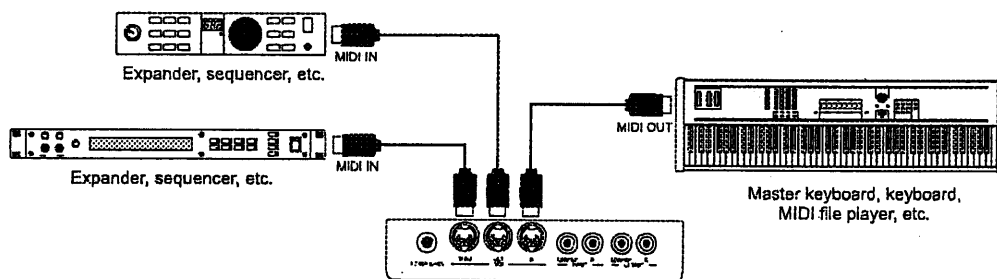
2.5 鍵盤棚下の接続端子



1.ヘッドフォンソケット: ヘッドフォンの接続端子です。(フォン・ジャック) ヘッドフォンをつなぐと、オルガンの音が出なくなります。

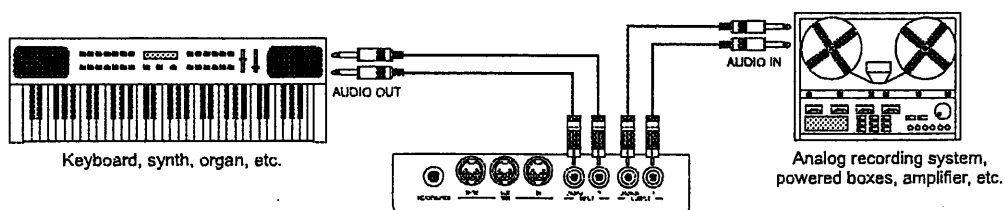
注意: ヘッドフォンの音を最適にするために、16Ωのヘッドフォンを推奨します。

2.MIDIソケット: MIDIインターフェースを持つ楽器の接続に使用する、5ピンのDINプラグ用のソケットです。INは他のMIDIソースから送られた信号を受け、OUTはプレスティッジ100から発信した信号を送り出し、THRUはINに受けた信号を正確に送り出すための端子です。

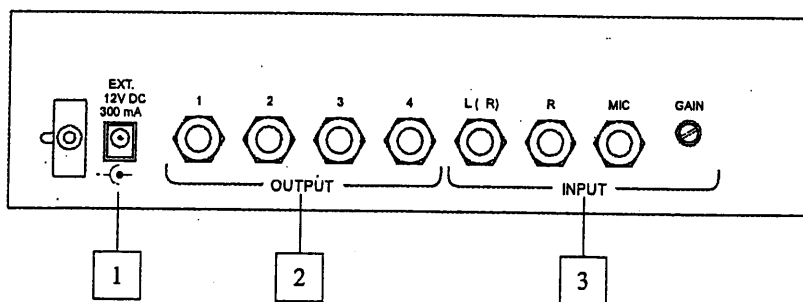


3.[INPUT]ソケット: 他の楽器で演奏したものを、オルガンのアンプで音を出すための端子です。(ピン・ジャック) 音源がモノの場合はL(MONO)へつないでください。

4.[OUTPUT]ソケット: アンプを通さない信号を送り出す端子で、アンプ付スピーカーや録音システムへ接続するためのものです。信号がモノの場合はL(MONO)へつないでください。



2.6 リア・パネルの接続



内部の結線はサービスマンが行なって下さい。

1.[EXT.+12VDC]: [OUTPUT]へ接続したスピーカーにDC12Vを送るための端子です。

外部スピーカーボックスは左サイドパネルの[EXT.SPK]スイッチでオン・オフできます。

2.[OUTPUT] 部: ここには4個のライン・アウトがあります。

コントロール・ユニットを使うと、オーディオ・アウトのパラメーターを変更することができます。(ボリューム、デイレイ、イコライザー等) このようにして、実際のオルガンのウインド・チェストの音響にちかずけることができます。

これらの機能はEXTERNAL OUTPUTS CONTROL や EXTERNAL VOICES ROUTERと呼ばれます。

詳細はアドバンスド・マニュアルをご参照ください。

警告!

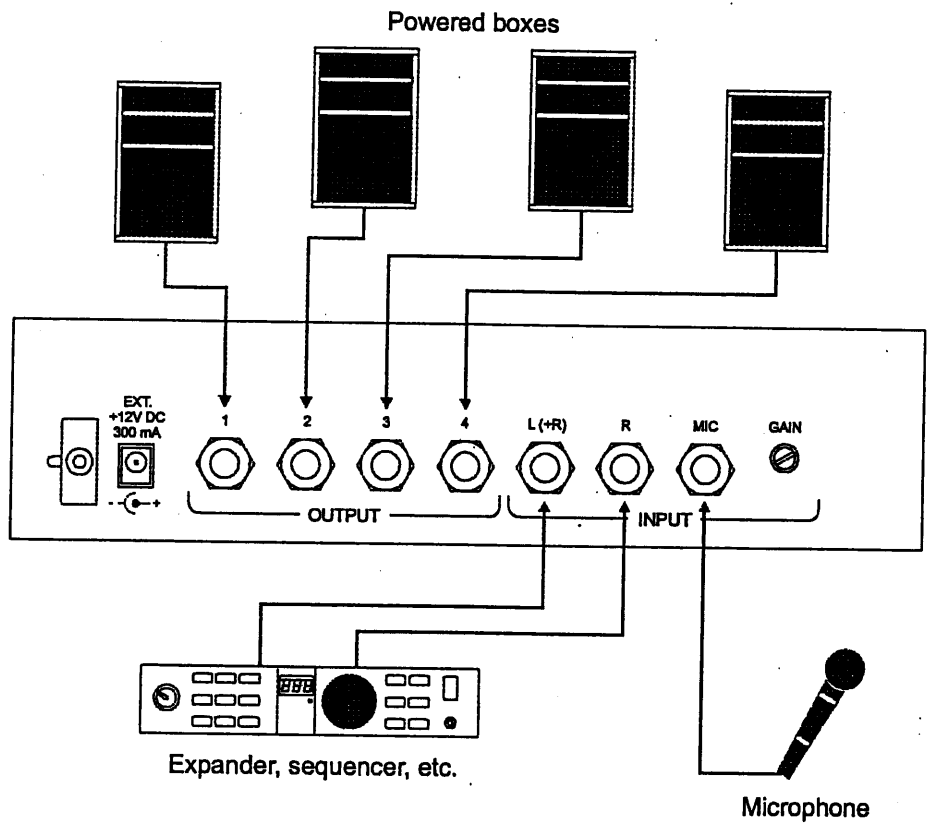
: 実際のパイプの音響に似せるためには、スピーカーをアウト・ポイント・ナンバーに従って配置する必要があります。アウト・ポイント1のスピーカーは一番左端に置き、順に配置します。つまり一番右側にはアウト・ポイント4のスピーカーがくることになります。

: 手鍵盤、足鍵盤、オーケストラ・ボイスのボリューム・コントロールは、鍵盤棚下のひき出しの中にあるセントラル・コントロール・ユニットとエクスプレッションペダルで行います。これらはリアパネルの[OUTPUT]への信号にも影響します。影響しないのは[GENERAL]のトリマーだけです。

3.[INPUT] 部: ここには外部機器のアウト・ポイント信号を受けて、オルガンのアンプで音を出すためのイン・ポイント端子があります。接続は次に通りです。

- [L+(R)], [R]: ステレオのイン・ポイント端子です。モノの場合は[L+(R)]だけを使ってください。
- [MIC]: マイクの接続端子です。
- [GAIN]: MICイン・ポイントに接続された信号を調整するトリマーです。

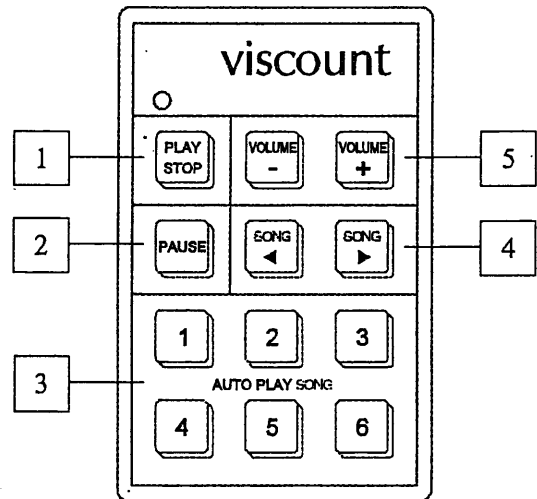
リア・パネルのアウトプット接続例



2.7 リモートコントロール(オプション)

プレスティッジ50にはリモコンがついています。
リモコンでは、オルガンの全体ボリュームや、
メイン・シーケンサーをコントロールできます。

- 1.[START-STOP] : スタート、ストップ、録音、
プレイバックに使います。
- 2.[PAUSE] : プレイバックの途中で、一時的に
シーケンサーを止めるボタンです。
- 3.[AUTO PLAY SONG] : これらの6個のボタンは、
フロッピーに保存した、最初の6曲を
[START-STOP]を使わずにプレイバックします。
- 4.[SONG] : フロッピー・ディスクにある曲を選ぶボタンです。
- 5.[VOLUME] : オルガンのジェネラル・ボリュームを
コントロールするボタンです。

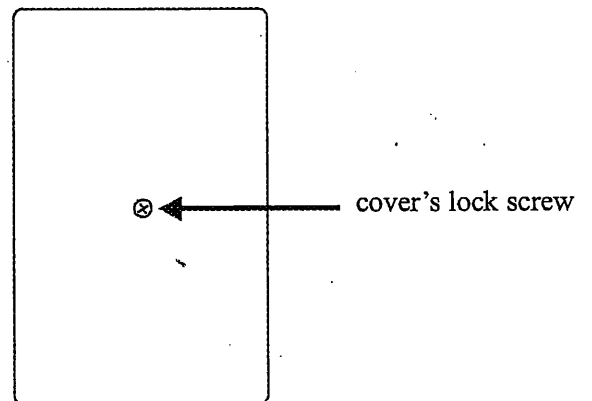
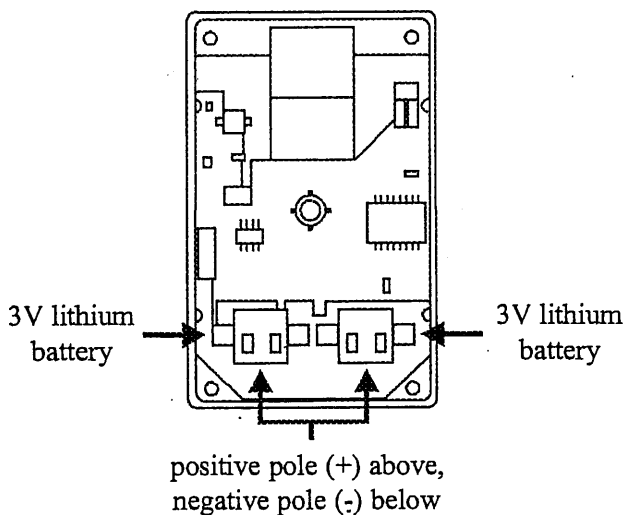


注意:

START-STOPスイッチのLEDはリモコンのデータ送信を示しています。それが点滅する場合はリモコンの電池を交換してください。

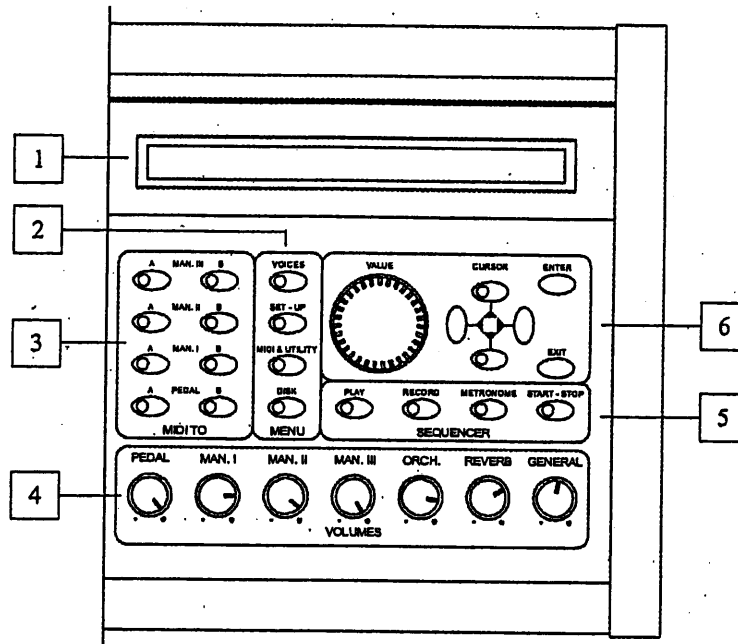
電池の交換

リモコンの裏側のネジをはずして、プラスチック・カバーを開きます。極性を確認して電池を交換して下さい。
注意: CR1220 3V リチウム・バッテリーをご使用下さい。



3. セントラル コントロール ユニット

鍵盤棚下のひき出しの中に、セントラル・コントロール・ユニットがあります。
このクイックガイドでは、基本的な部分の記述をします。詳細な機能やパラメーターについてはアドバンス
マニュアルをご参照下さい。



- 1.ディスプレイ: 2行40文字のディスプレイにオルガンの諸機能に関する画面を表示します。
- 2.メニュー選択ボタン: これら4個のボタンでメイン・メニューを選びます。

- [VOICES]: オルガン・ボイスに関するボタンです。
- [SET-UP]: オルガンの全体設定を行うボタンです。
- [MIDI & UTILITY]: MIDIインターフェースの設定と、リアパネルの接続を設定します。
- [DISK]: フロッピー・ディスクとそこに保存されたファイルに関する機能です。

3. MIDI TO部: 各手鍵盤と足鍵盤のA,BチャンネルのMIDIノートの送信をアクティブにする
ボタンがあります。各ボタンのLEDは関連するMIDIチャンネルの送信状態を示しています。

- LED on: ノートコードの送信が可能な状態。
- LED off: ノートコードの送信停止状態。

詳しいMIDIインターフェースの可能性については、アドバンス・マニュアルをご覧下さい。

4.VOLUMES部: オルガン各部の音量を調整するものです。

- [PEDAL]: 足鍵盤のボリュームコントロール。
- [MAN.I]: 第1手鍵盤のボリューム・コントロール。
- [MAN.II]: 第2手鍵盤のボリューム・コントロール。
- [ORCH]: オーケストラボイスのボリューム・コントロール。
- [REVERB]: リバート効果のレベル調整。
- [GENERAL]: オルガンの全体ボリューム・コントロール。

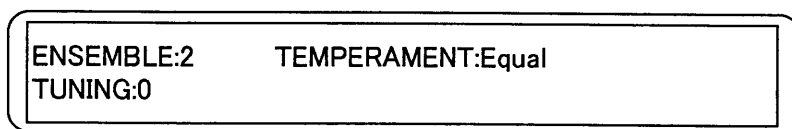
5.シーケンサー: プレステイジ100に内蔵されたマルチトラック・シーケンサーの操作ボタンがあります。
詳しい説明は、アドバンスド・マニュアルをご覧ください。

- [PLAY]: レコーディングしたMIDIシーケンスのプレイバックに使用します。
- [RECORD]: MIDIシーケンスのレコーディングに使用します。
- [METRONOME]: このボタンを短く押すとメトロノームが起動します。
長押しすると、メトロノームのセッティングページが出ます。
- [START-STOP]: MIDIシーケンスのレコーディングやプレイバックのスタート/ストップに使用します。

6.ディスプレイ・ファンクションコントロールボタン: これらのボタンで、カーソル移動、数値設定、ページの選択、コンピューターメッセージの確認や拒否を行います。

- [VALUE]: パラメーターの設定に使うエンコーダー。
- カーソル: 画面のページの中でのカーソル移動に使用します。
▲、▼にはLEDが付いていて、点灯時は、次ページ、前ページに関連する説明がある事を示しています。ボタンを押して、要求されたページを見て下さい。
- [ENTER]: 機能の内容を表示したり、ディスプレイ上のメッセージの確認に使用します。
- [EXIT]: 現在のページから出たり、ディスプレイ上のメッセージの拒否に使用します。

楽器の電源をオンにすると、ディスプレイは次のようになります。



ここには下記のパラメーターがあります。

- ENSEMBLE: 経年変化による、各パイプ間の整音の微妙な狂いを、8つのレベルでシミュレートできます。数値は-(完全に調律されている)から8(整音の最大の狂い)迄になっています。

○ TEMPERAMENT: ここではいろいろな時代と国々の歴史的テンペラメントを選ぶことができます。MEANTONE, CHAUMONT, WERCKMEISTER, KIRNBERGER, PYTHAGOREAN, VALLOTTI, KELLNER が入っています。

MEANTONE: 8個の純粋な長3度(Eb-G/Bb-D/F-A/C-E/G-B/D-F#/A-C#/E-G#)
使用できない長3度(減4度) (B-D#/F#-A#/C#-E#/Ab-C)
ウルフの5度: G#-Eb, 不規則な半音階。
ミントーンで使用できる調: C,D,G,A,Bb とそれぞれの平行短調。

以下はすべての調を使えるように工夫したのですが、それぞれの響に特徴があります。

WERCKMEISTER: オルガニスト、楽理学者のアントレアス・ウェルクマイスターの考案になるもので1600年代後半のドイツ音楽に向きます。

KELLNER : Herbert Anton Kellner. 1938年プラハ生まれ。ウーン大学で物理学、数学、天文学を学ぶ。バッハの「平均率クワイア曲集」の研究により、新しいテンペラメントを確立。18Cのドイツ音楽、特にバッハに向く。

CHAUMONT: 6つの純正な長3度からできています。D-F#/E-G#/F-A/G-B/A-C#/C-E(これはややせまい)。
17C終りから18世紀初頭のフランス音楽に使われます。

PYTHAGOREAN: 純正5度を保持したもので、中世から15世紀の音楽に向きます。

VALLOTTI: Vallottiのテンペラメントは後にイギリスのトマス・ヤングに採用されました。18世紀のイタリア音楽と、イギリス音楽に向きます。

KELLNER: ヘルベルト・アントン・ケルナー。1938年プラハ生まれ。バッハの平均律クワイア曲集の研究により、1975年に独自のテンペラメントを考案。18世紀のドイツ音楽、特にバッハの音楽に向きます。

4.オルガン ジェネラル セッティング

中央パネルの[SET-UP] ボタンを押すと、オルガンのジェネラル・セッティングができます。
画面は次のようになります。

[TREMULANT] [REVERB] [KEYBOARDS SETTING]
[INTERNAL EQUALIZER]

AFCリバーブのあるオルガンではSET-UPメニューは2ページになります。

[TREMULANT] [REVERB] [KEYBOARDS SETTING]
[INT.EQUALIZER]

[AFC EFFECT CALIBRATION]

- TREMULANT: 各鍵盤のトレミュラントの設定を行う機能です。
- REVERB : リバーブの種類を選べます。AFC付オルガンでは、オルガンのリバーブとAFCのリバーブのバランスを調整できます。
- KEYBOARDS SETTING : 手鍵盤と足鍵盤のパラメーターの調整を行う機能です。
- INTERNAL EQUALIZER : オルガン内蔵のイコライザーの調整機能です。
- AFC EFFECT CALIBRATION: AFCリバーブの自動設定機能です。

注意:

INTERNAL EQUALIZER, AFC CALIBRATIONはアドバンスド・マニュアルに説明があります。

各機能を変更する場合は、関連するフィールドにカーソルをあて、ENTERを押します。メインメニューへ戻るには、[EXIT]か[SET-UP]を押します。

また、他のメニューボタンを押せば、その機能へダイレクトに入ることもできます。

4.1 トレミュラントの設定

各手鍵盤のトレミュラントの深さとスピードの設定ができます。

[SET-UP]メニューからトレミュラントのフィールドを選ぶと、ディスプレイは下記ようになります。

TREMULANT:	Manual.I	Manual.II
Depth/Speed	16/16	16/16

各手鍵盤のトレミュラントの深さとスピードが下段に表示されます。

／の左側が深さ、右側がスピードの表示です。それらの数値を変えるには、カーソルをその数値にあて、エンコーダーを回します。

必要な変更が終わったら、[ESC]キーを押してSET-UPメニューに戻り、新しい設定を保存します。

4.2 リバートの型を選ぶ

ここではリバートの8つのタイプを選ぶ事ができます。これらのリバートはいろいろな環境に置かれたオルガンの響をシミュレートするものです。

中央パネルのリバートつまみでリバートレベルを調整できます。

リバートタイプを選ぶには、[SET-UP]メニューからREVERBフィールドに入り、ENTERを押します。ディスプレイの表示は次のようになります。

REVERBERATION:	type: Cathedral
----------------	-----------------

エンコーダーを回してお好みのリバートタイプを選び、ENTERを押します。

変更を保存したり、[SET-UP]メニューに戻るときは、[ESC]キーを押して下さい。

注意:

オルガン内蔵のリバートは、オーケストラ・ボイスにも有効です。また、リアパネルの[INPUT]端子から入る信号にも有効です。

AFCリバーブ付オルガン

ヤマハが開発したAFC(Active Field Control)モジュールは革新的なリバーブシステムで、最新の電子音響技術を駆使して、音の強さ、広がり、音の反響等、リバーブをより自然なものとしています。

リバーブを発生させるときに、AFCが、オルガンを設置した部屋の音響反射をコントロールして、その部屋の音響特性をきわだたせることとなります。

大きな部屋に設置された場合は、普通のリバーブが生む不自然さを避け、小さな部屋に設置された場合は、逆に大コンサートホールの音響を得ることができます。

AFC付のオルガンでは、通常のリバーブタイプとAFCリバーブのバランスを調整することができます。

画面表示は次のようになります。

```
REVERBERATION:  type: Cathedral
Normal/AFC      Balance: 40/60    AFC ON
```

上記表示の上段は2つのリバーブのバランスを示し、下段は現在のAFCの状態を示しています。

- AFC ON: AFCシステムがONになっています。
- AFC BUSY: AFCシステムがデータ処理中です。リバーブは働きません。AFC ONになるまで、お待ち下さい。
- AFC OFF: AFCシステムがOFFになっています。

必要な変更が終わったら、[ESC]キーを押してSET-UPメニューに戻り、新しい設定を保存します。

警告:

AFCを100にして、リバーブ・ボリュームを大きくかけると、ハウリングを起こします。リバーブ・ボリュームを調整して、ご使用下さい。

4.3 手鍵盤のジェネラルセッティング

鍵盤の設定機能には手鍵盤と足鍵盤の4つのメイン・パラメーターがあります。

[SET-UP]メニューからKEYBOARD SETTINGのフィールドに入ると、最初の画面はRANKS DISTANCE(アドバンスマニュアルに詳述)です。

そこでカーソルボタン ▼ を押して、KEYBOARDS INVERSIONのパラメーターに入ります。

```
KEYBOARDS INVERSION: disable
```

KEYBOARD INVERSION の機能を使うと、MAN.IとMAN.IIが入れ変わります。
エンコーダーを回すと、disable(オフ)、enable(オン)が切り替わります。

設定のしかたは下記の通りです。カーソルをディスプレイの最初にあて、エンコーダーを回すと、enable(オン)とdisable(オフ)を変更することができます。

この設定状態は中央パネルのLED ([K.. INV])でも確認できます。

さらにカーソルボタン ▼ を押すと、最後の鍵盤設定である、ENCLOSEDとAUTOMATIC PEDAL、また、トレミュラントの深さとスピードの設定へ進みます。

ENCLOSED, AUTOMATIC PEDAL AND TREMULANT
DEPTH AND SPEED STORED IN MEMORIES: NO

エンコーダーでYESを選ぶと、それらをメモリーできます。止める場合はNOを選びます。

注意:
エンクローストとオートマチック・ペダルをアクティブにした場合、キャンセルボタンを押しても、これらはキャンセルされません。

必要な変更が終わったら、[ESC]キーを押してSET-UPメニューに戻り、新しい設定を保存します。

5.レコーディングとプレイバック

プレスティッジ50は録音、フロッピーディスクへの保存、プレイバック機能を持ったシーケンサーを内蔵しています。ここでは録音機能の基本的なことを説明します。詳細はアドバンスマニュアルをご覧ください。

5.1 演奏した曲を録音する。

レコーディングモードに入るには、まずフロッピーディスクを差し込んでから、[RECORD] ボタンを押します。ディスクの読み込みが始まると、下記の表示になります。

*** Reading disk contents ***
Please wait

表示は次のように変わります。

RECORD:NEWSONG Tempo:120 Meas: 1
Ped: REC Man.I: REC Man.II: REC Common: REC

次に、ボイスと他のコントロールをONにして、[START-STOP]を押します。シーケンサーがスタートします。(予備小節(3小節目で弾き始めるとか)を外ロームで設定できます。)[START-STOP] ボタンのLEDが設定したテンポと拍子にあわせて点滅します。

レコーディングを終了するには、もう一度[START-STOP] ボタンを押します。画面にはレコーディングしたシーケンス(曲)をセーブする表示が出ます。またそこに表示された.MIDファイル名がフロッピーに書き込まれます。

SEQUENCER SAVE:
SONG: SESSION 1.MID - Press ENTER to start

カーソルボタンでカーソルを移動し、エンコーダーで文字を選びます。[ENTER]を押せばレコーディングされた曲が保存され、[EXIT]を押せば保存の操作を解除します。さらに[EXIT]を押せば、メインページへ戻ります。

注意:

すでに保存してある曲を消さないために、すでに保存してある曲と同じ名前を入力しないように注意して下さい。同じ名前をセーブすると、もとのものが上書きされます。

5.2 レコーディングした曲をプレイバックする。

レコーディングした曲をプレイバックするには、フロッピーを差しこみ、[PLAY]を押します。
フロッピーの読み込みが始まります。

```
*** Reading disk contents ***  
Please wait
```

ディスクに保存されているすべてのトラック(MID ファイル)が表示されます。

```
ERICSONG.MID SESSION1.MID RECORD_1.MID  
RECORD_2.MID RECORD_3.MID
```

カーソルキーでプレイバックしたい曲を選び、[ENTER]を押します。
画面は次のようになります。

```
PLAY: SESSION 1 Tempo:120 Meas: 1  
Ped:— Man. I:PLY Man. II:PLY Common : PLY
```

[START-STOP] ボタンを押すと、プレイバックが始まります。
プレイバック中にボイスを変えたり、シーケンサーと一緒に演奏することも可能です。
プレイバック中に[PLAY]を押すとポーズがかかります。

```
PLAY: SESSION 1 Tempo:120 Meas: 12  
Ped: PSE Man. I: PSE Man. II: PSE Common: PSE
```

もういちど[PLAY]を押すとポーズが解除されます。

プレイバックを止めるには再び[START-STOP] ボタンを押します。
[EXIT]か[PLAY]を押せばメインメニューへもどります。

6.ボイス ローカル・オフ

オルガンからは音を出さずに、接続した楽器にMIDI信号を送って(System Exclusive)音を出す使い方をローカル・オフといいます。

ローカル・オフにするには、[S]ボタンと[C]ボタンを同時に押します。すべてのストップがオンになり、画面は次のようになります。

LOCAL ON/OFF STOPS SETTING

ローカルオフモードにするには、ローカルオフにしたいストップを押してそのストップのランプを消します。設定が終わったら、もういちど[S]ボタンと[C]ボタンを同時に押して、設定を保存します。

ランプ点灯: ローカルオンモード

ランプ消灯: ローカルオフモード

通常の操作で、ローカルオフがアクティブになっている場合、ストップが2回点滅してから点灯します。

7.ファクトリーセッティング

ファクトリーセッティングを行うと、ユーザーが行った変更がキャンセルされ、すべての設定が工場出荷時の状態にもどります。

カーソル▲と▼を同時に押したまま、電源をオンにします。下記の画面が現れます。

Factory Setting in Progress

MIDI IMPLEMENTATION CHART

Viscount Prestige
Classic Organ

Version: 1.0
Date: 19/07/05

FUNCTION...	TRANSMITTED	RECEIVED	REMARKS
BASIC Default	1÷15	1÷15	*1
CHANNEL Changed	1÷15	1÷15	
MODE Default	Mode 3	Mode 3	
Messages	*****	*****	
Altered	*****	*****	
NOTE	30÷101	30÷101	
NUMBER True Voice	36÷96	30÷101	
VELOCITY Note ON	O	O	
Note OFF	X	X	
AFTER Key's	X	X	
TOUCH Ch's	X	X	
PITCH BENDER	O	O	*2
CONTROL 7	O	O	Volume
CHANGE 11	O	O	Expression
64	O	O	Sustain
120	O	O	All sound off
121	O	O	Reset All Controllers
123	O	O	All Notes Off
PROGRAM	O	X	
CHANGE True#			
SYSTEM EXCLUSIVE	O	O	
SYSTEM Song Pos	X	X	
COMMON Song Sel	X	X	
Tune	X	X	
SYSTEM Clock	O	O	*3
REAL TIME Commands	O	O	
AUX Local On-Off	X	X	
MESSAGES All notes off	O	O	
Active Sense	O	X	
Reset	X	X	
NOTES:	*1: see par. 6.3 for further informations *2: received Pitch Bend code is applied to the Orchestra voices only *3: these messages are used to control the sequencer		

Mode 1: Omni On, Poly
Mode 3: Omni Off, Poly

Mode 2: Omni On, Mono
Mode 4: Omni Off, Mono

FCC RULES

NOTE: This equipment has been tested and found to comply with the limits for a **Class B** digital Device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instruction, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that the interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced Radio/TV technician for help.

The user is cautioned that any changes or modification not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate the equipment.

viscount

Viscount International S.p.A.

Via Borgo n.° 68/70 – 47836 Mondaino (RN), ITALY

From Italy: TEL: 0541-981700 FAX: 0541-981052

From all other countries: TEL: +39-0541-981700 FAX: +39-0541-981052

E-MAIL: organs@viscount.it

WEB: <http://www.viscount-organs.com>

<http://www.viscount.it>